



「正倉院文様」で産業活性化に取り組む ～デジタル化で現代によみがえった文様～

国立大学法人奈良女子大学の社会連携センター
特任教授 藤野千代さんは、奈良時代から伝わる
「正倉院文様」をデジタルデータ化して、現代風
にアレンジしたデザインを生かし、県内産業の活
性化に取り組んでいる。

藤野さんは今までに、「奈良八重桜プロジェクト」と「天平文様プロジェクト」の2つの地域産
学官連携事業に関わっている。

■「奈良八重桜プロジェクト」

2009年5月に奈良女子大学が創立100周年を
迎えるのを記念して、学内に咲き、学章にも使わ
れている「奈良八重桜」から清酒酵母を分離・培
養して日本酒を造ることを2006年に計画した。
そして、今西清兵衛商店（奈良市）、奈良県工業
技術センター（当時）ともに2008年に清酒「奈
良の八重桜」を誕生させた。

「奈良の八重桜」は発売されると2カ月で完売
状態に。商品はもちろん藤野さんデザインのパッ
ケージも高く評価され、消費者からは発売後すぐ
に結婚式の引き出物に使いたいとの相談が寄せら
れた。



「奈良の八重桜」とパッケージ

■「天平文様プロジェクト」

清酒のパッケージデザインに引き続き、2009
年6月、奈良女子大学の学生が県内企業と共同で
開発した菓子の箱デザインも藤野さんに任される
こととなった。

デザイン制作にあたり、どちらも「奈良らしい

商品に奈良の衣をまとうお客様にお渡ししたい」
という気持ちで試作を重ね、導かれるように正倉
院文様にたどり着いた。その過程で、1300年の
時を重ねてなお、その気品を失っていない正倉院
宝物は手強く、天平文様からは工芸技師の誇りや
遊び心が感じられたという。デジタル化は、何よ
りも宝物がまとう雰囲気を壊さないよう、また宝
物の質感も感じ取れるように配慮しながら進めら
れた。

そして完成した正倉院文様を現代風にアレンジ
したデザインは、天平時代の当時の人々が使うこ
とのできなかった豊富な色彩を加えることでまた
違った輝きを放った。



デジタルデータ化された正倉院文様

■天平文様データベースの活用

デザインデータは現在、複数の奈良県内企業で
菓子・酒・茶・そうめん箱、文具雑貨、工芸品
(あんどん行燈)、おせち箱、包装紙等に利用されている。

中身が同じ商品であっても包装から「心」を感
じるならば、お客様はその心ある方を選ぶという。

特に諸外国の方からは「日本らしい」と評価さ
れており、「奈良の八重桜」はそのパッケージか
ら欧米、特にフランスでの評価が高い。

正倉院宝物に宿る職人たちの魂に思いを馳せ、
現代の技術で新たな息吹が吹き込まれた、「奈良
らしさ」を醸し出す商品に、地域産業の活性化を
担ってほしい。（奥 桂子）